

「こたつ」記事を定義する

藤代 裕之†

法政大学社会学部†

1. はじめに

フェイクニュースが世界的な問題となっており、国内では Google と Yahoo! の支援を受けて日本ファクトチェックセンター (JFC) が立ち上がるなど対策が進んでいるが、ファクトチェックは注目されているが、フェイクニュースそのものを抑止する取り組みではない。フェイクニュースを生み出す構造に「こたつ」記事がある[1]。ニュースに偽・誤情報が入り交じることで、フェイクニュースが人々の日常的な情報接触到に拡大するとともに、ニュースの信頼性も低下してしまう。「こたつ」記事を見分けることが可能になれば、人々のフェイクニュースへの接触を低減させることができる。ポータルサイトや検索サイトが「こたつ」記事の表示を減らせば、フェイクニュース拡散抑止にもつながる。しかしながら「こたつ」記事は定義が曖昧なため、見分けることが難しいという課題がある。そこで本研究では「こたつ」記事の定義を試みる。

2. 「こたつ」記事とは何か

まず「こたつ」記事の歴史を確認する。発端はライターの本田雅一による 2010 年のツイートとされている。図 1 にあるように、ブログや海外記事、掲示板、他人が書いた記事などをもとにした総合評論であると述べている[2]。



本田雅一
@rokuzouhonda

ええと、「コタツ記事」というのは、ブログや海外記事、掲示板、他人が書いた記事などを「総合評論」し、コタツの上だけで完結できる記事の事を個人的にそう呼んでます。自分たちでコタツ記事が優れていると宣言している方もいれば、言ってない方も。柔らかな言い方をすると「文献派」の方々

午後2:56 · 2010年12月9日

図 1. 「こたつ」記事の発端となったツイート

デジタル大辞林は「独自の調査や取材を行わず、テレビ番組や SNS 上の情報などのみで構成される」としている。Yahoo! ニュース編集者だっ

た三日月儀雄は「取材をしないでネットの書き込みやテレビ番組などの放送内容だけを頼りに記事を書く」[3]としている。

新聞や雑誌記事を横断的に検索できる G サーチで全国紙と地方紙を対象に「こたつ記事」「コタツ記事」を検索したところ、2019年0件、2020年3件、2021年3件、2022年18件あった。

高知新聞は「芸能人やスポーツ選手など著名人のテレビでの発言や会員制交流サイト (SNS) への書き込みなどを基に、ネット上に書く記事の類い」「こたつに入ったまま手軽に書ける内容の薄い記事」「取材や調査をしない」[4]、東奥日報は「テレビや SNS の情報で書く」「直接取材も無しにお手軽に書くことができる」[5]と説明している。朝日新聞は「ツイッターなどでの著名人の発言に批評や検証を加えず、そのまま紹介する」「手間をかけず、こたつに座ったまま書けるといった意味」[6]とし、著名人のソーシャルメディアでの発言を検証なしに記事化し、間違いを拡散した新聞社が謝罪・訂正に追い込まれていると指摘している。

「こたつ」記事は、当初ネットに公開された記事などを基に「評論」することを意味していたが、取材をしないこと、検証をしないこと、の意味に変化していったといえる。

3. 「こたつ」記事を見分けるのは困難

2020 年以降の新聞記事から「こたつ記事」の特徴をひとまず以下の 3 点とした。

- ✓ 取材や検証をしていない
- ✓ 芸能人などの有名人の情報が対象になる
- ✓ テレビやネットの情報を基にしている

この特徴を、Yahoo! ニュースのトピックス (国内、国際、経済、エンタメ、スポーツ、IT、科学、地域) に、2022 年 9 月 24 日から 9 月 30 日に掲載された 621 件の記事に適用し、見分けることができるか調査を行った。実施手法は大学生 6 人が 2 人一組となり記事に対して適用したところ、2 人の判断が一致したものは 476 件、うち「こたつ」記事は 76 件だった。2 人の判断が異なったものが 143 件あり、先程掲げた 3 つの特徴では見分

Defining Kotatsu article

† Hiroyuki Fujishiro, Hosei University

けることが困難であることが明らかになった[7]。

困難さは、現場で取材した記事なのか、テレビやネットの情報を参考にしたのかの判断、情報源の不透明さの2点にあった。要因を学生の意見や質問から具体的に確認する。

例えば、メジャーリーグを扱ったスポーツ記事では「ファン総立ち」「大熱狂に包まれた」と現地で取材して記者が取材を見たような記述があるものの、記事に添えられているのは通信社が配信した写真やスポーツ専門チャンネルの動画であり、学生から「現地で取材しているか疑わしい」との意見が出た。

企業の新商品や新サービス発表の記事では、「企業サイトやツイートを見て書いた可能性があるが、それが記載されていない」という質問があった。企業の広報担当者がメディアに連絡することで記事化されることはあるが、学生からは情報源を隠しているように見えた。「ネット上で～」「ツイッター上で～」「メディアで～」のように情報源を明示していない不透明な記事も多くあるとの意見が出た。

スポーツの動画中継や企業サイトの情報発信が増加し、ネットの情報を見ながら、まるで現場にいるような記事を書くメディアが登場している。その一方で、既存メディアは多くの場合「取材した」ことを明記しないため、学生からは「記者が現場取材に行っているのであれば、それを分かるように記事に記載すべきだ」という意見があった。

4. 「こたつ」記事の定義と分類

歴史と調査を踏まえると、現場取材を装う記事の出現や情報源の不透明さという問題が生じており、偽・誤情報や世論工作がニュースに入り込む脆弱性が拡大していることが分かった。フェイクニュース対策のためには、この問題を解決する必要がある。そこで「こたつ」記事の定義を以下の2点とする。

- 取材・検証を行っていない
- 情報源が明示されていない

取材・検証を行っているかどうかは読者から判断できないため、取材・検証していることが明記されており読者が判断できることとする。テレビやネットの情報をそのまま紹介する場合でも、情報源が明記されている場合は「コピペ」記事とし、「こたつ」記事には含まないものとする。「コピペ」では、読者が情報源を確認できるよう日付や時間、アカウント名などが具体

的に記載されている必要がある。

「こたつ」記事は次の3種類に分類する。情報源が明記されているように見えるが実態がない記事を「捏造」、取材したかのように見せかける記事を「偽装」とする。取材・検証も情報源も確認できない記事を「無根拠」とする。「無根拠」には「ネット上で～」などの記載で情報源が確認できない記事も含まれる。

	分類	取材 検証	情報 源	備考
「こたつ」 記事		○	○	読者が取材・検証と情報源を確認できる
		○	×	読者が取材・検証を確認できる
	コピペ	×	○	読者が情報源を確認できる
	捏造	×	△	情報源が捏造されている
	偽装	△	×	取材・検証が偽装されている
	無根拠	×	×	取材・検証も情報源も確認できない

図2. 「こたつ」記事の分類

5. おわりに

本研究では、フェイクニュース対策のために「こたつ」記事の定義と分類を試みた。定義と分類は引き続き議論されることが望ましい、その際に重要な視点は、メディア業界や発信側の都合ではなく、読者側が判断できることである。定義と分類により「こたつ」記事を読者が見分けるアプリケーションやワークショップを開発することが可能となった。ポータルサイトや検索サイトは「こたつ」記事を除外するというフェイクニュース抑止の取り組みが求められる。

<参考文献>

- [1] 藤代裕之・編 (2021) 『フェイクニュースの生態系』青弓社
- [2] <https://twitter.com/rokuzouhonda/status/12747313592147968> 2023年1月10日確認
- [3] 三日月儀雄 (2019) 「ニュース——ソーシャル時代で改めて問われるニュースの『質』」『ソーシャルメディア論・改訂版 つながりを再設計する』青弓社
- [4] 「『喫水線』 本社報道センター長・浜田成和 つながってこそ」高知新聞 2020年10月18日朝刊
- [5] 「東奥春秋」東奥日報 2020年11月30日朝刊
- [6] 「「こたつ記事」、謝罪・訂正続々」朝日新聞 2020年12月19日朝刊
- [7] 合田優希・藤代裕之「Yahoo!ニュースにおける「こたつ記事」の特徴分析」として途中経過を第47回情報通信学会大会で発表